

令和8年度 大分大学学校推薦型選抜入試問題

小 論 文

(福祉健康科学部)

福祉健康科学科 社会福祉実践コース

解答時間 90分 (9時00分～10時30分)

配 点 150点

注意 解答はすべて解答用紙に記入すること。

令和8年度(2026年度)
大分大学福祉健康科学部 学校推薦型選抜入試問題
福祉健康科学科 社会福祉実践コース

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「あの頃に戻りたい。何もかもすっかり変わってしまった」

そうこぼす年配者がいるのは世の常だが、この主張は半分正しくて半分間違っている。たしかに、昔は何もかもがいまと違ったが、いまと比べて良かったわけではない。むしろほとんどの面で、昔はいまより悪い世の中だった。それに、昔がどうだったか、正確に覚えている人は少ない。

西ヨーロッパと北アフリカで、深刻な飢餓や生活苦を身をもって経験した人は、第二次世界大戦や世界大恐慌の時代を生き延びた、ひと握りの年配者しかない。一方、中国とインドでは、少し前の世代まで極度の貧困があたりまえだった。しかし、きれいな服を着ていい家に住み、バイクを乗り回すようになったインド人や中国人の多くは、貧しかった頃のことを忘れてしまうようだ。

スウェーデン人作家でジャーナリストのラッセ・ベリは、1970年代にインドの田舎を訪れて綿密な取材を行った。25年後、同じ村を訪れたラッセは、暮らしの質が明らかに良くなったことに気づく。1970年代に彼が撮った写真には、土の床、粘土の壁、着るものも満足にない子供たち、そして外の世界のことを知らず、不安そうな顔をした村人たちが写っていた。しかし1990年代後半に訪れたときには、コンクリートの家、服を着て遊ぶ子供たち、そして外の世界に興味を持ち、自信ありげな村人たちが、テレビを楽しむ姿があった。何もかもが25年前と対照的だった。

そこでラッセが村人たちに25年前に撮った写真を見せると、村人たちはあ然とした。

「信じられん」

「この村はこんなに貧しくなかったぞ」

「別の村で撮った写真じゃないのか？」

わたしたちと同じように、村人たちはいまのことで頭がいっぱいだ。子供が不謹慎なドラマ番組を見ているとか、バイクを買うお金が足りないといった悩みに追われ、昔の記憶はすっかり薄れてしまっている。

そして多くの人は、上の世代が経験した悲惨な出来事から目を背けがちだし、それを下の世代に伝えようともしない。

残酷な過去と向き合いたければ、古代の墓地と現代の墓地を比べてみよう。古代の墓地で考古学者が見つけるものの多くは、子供の遺骨だ。ほとんどの子供たちは飢餓や病気で亡くなったが、暴力を受けた痕がある遺骨も少なくない。狩猟採集社会では殺人率が10%を超えることも多く、相手が子供であろうが容赦はなかった。一方、現代の墓地に行くと、そもそも子供の墓自体あまり見かけないだろう。

戦争、飢餓、自然災害、失政、腐敗、予算削減、難病、大規模リストラ、テロ事件。世界はいつだって悪

いニュースのオンパレードだ。反対に、ゆっくりとした進歩は、どれほど大規模であっても、何百万人という人に影響を与えたとしても、新聞の一面に載ることはない。もしも記者が「航空機、無事着陸」「農作物の収穫、また成功」といった記事を書こうものなら、すぐに会社をクビになるだろう。

報道がより自由になり、技術が進歩するにつれ、悪いニュースは以前にも増してすぐに広まるようになった。数世紀前、ヨーロッパからやって来た開拓者がアメリカ先住民を虐殺したことは、ヨーロッパ本土ではニュースにならなかった。計画経済の失敗により、中国の農村部で大規模な飢餓が起きたことを、赤旗を掲げたヨーロッパの若い共産党員は知らなかった。動物が絶滅しても、生態系が壊されても、昔は誰も気に留めなかった。

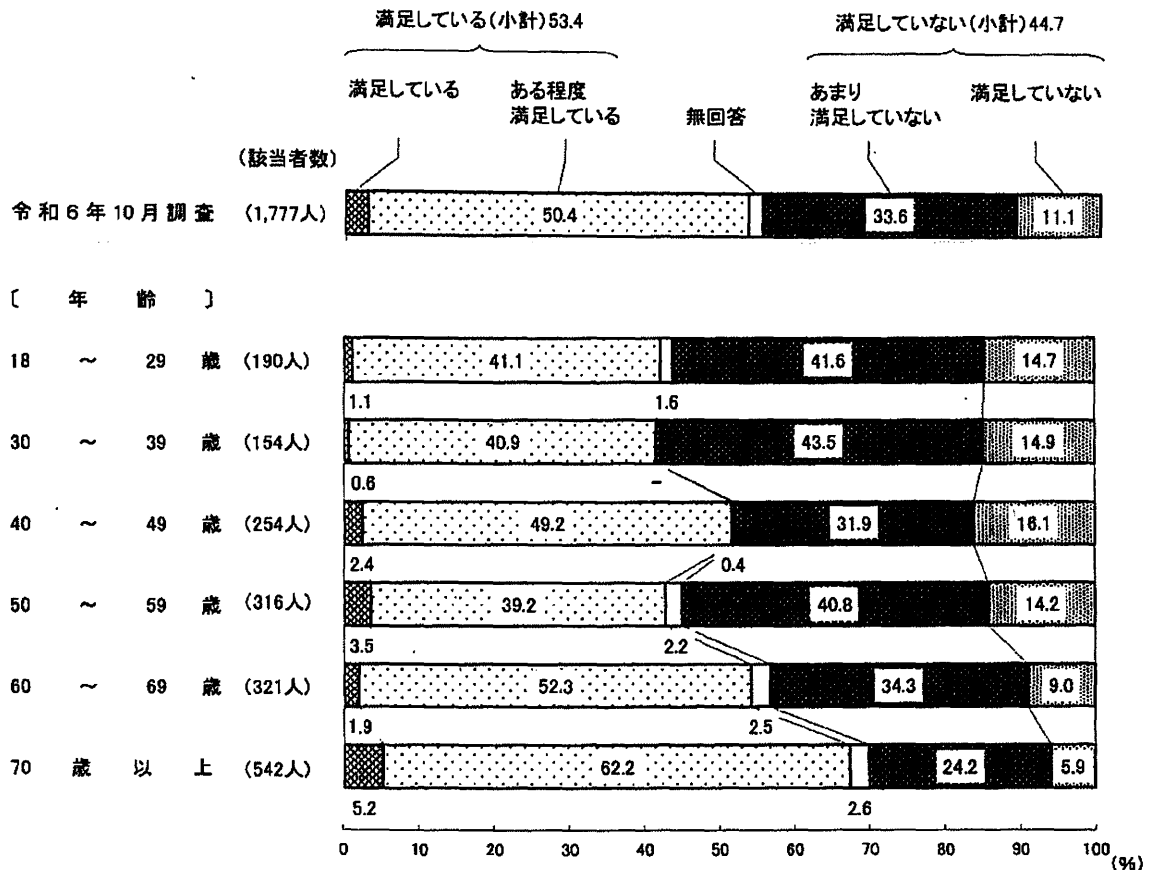
暮らしが良くなるにつれ、悪事や災いに対する監視の目も厳しくなった。昔に比べたら大きな進歩だ。しかし監視の目が厳しくなったことで、悪いニュースがより目につくようになり、皮肉なことに「世界は全然進歩していない」と思う人が増えてしまった。

(出典：ハンス・ロスリング 他 (著), 上杉周作 他 (訳), 『^{ファクトフルネス}FACTFULNESS 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』, 日経BP社, 2019年より抜粋・改変)

問 本文の内容を踏まえつつ、この文章に対するあなた自身の考えを、600字以内(句読点を含む)で述べなさい。

2 図は、現在の社会に対する全体的な満足度を単数回答で問うたものである。年齢層間の差異を概説した上で、差異の要因について、あなたの考えを500字以内（句読点含む）で述べなさい。

「あなたは、現在の社会に全体として満足していますか。それとも、満足していませんか。」



(注) 四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない場合がある。

図 社会全体の満足度

(出典：内閣府『社会意識に関する世論調査』(令和6年10月調査)世論調査報告書概略版より抜粋・改変 <https://survey.gov-online.go.jp/202501/r06/r06-shakai/gairyaku.pdf>, 2025/08/25)